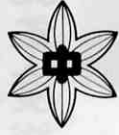


くまざさ



新春夢想録



湖陵同窓会
 会長 組 村 真 平

毎朝一時間のトレーニングをするようになってから、もう十五年になる。左足のアキレス腱を切つて運動不足を痛感したのと、東京オリンピックの体操選手の華麗な演技に触発されて始めたのが、どうやら習慣になってしまったらしい。今でも腹筋百回、鉄棒連続逆上りなどが可能で、筋骨隆々とまではないかないが、裸になれば、ちよつとしたものだし何よりも血圧その他の成人病がないというのが効果といえるかも知れない。

そんなことで「継続は力なり」というのが何時ごろからか私の座右の銘になり、湖陵の入学式や卒業式の祝辞などでも時折、偉らそうに引用したりして話をする。ところでは元来肥るたちである。出張して一週間も体操を休むと、兎端に二、三キロも体重が増加し、腹がせり出て来る。酒を飲むと、これまた肥る。自制心が薄れ戦時中の飢餓感が甦え

るのか、とめどもなく何でも食べるの、たくなり、そして食べるからである。年末年始の酒で三キロ程増加したようであるが体重計に上るのが何となく気が重い。

「毎日ですか、すごいですね」などと云われて「習慣になって、休むと何か物足りません」と優等生的に答えてはいるものの、真相は肥満への恐怖心である。女房は私のその気持ち、はなから承知で「あら おながが出たみたい、顔が少し丸くなったようね」などと私の恐怖感をくすぐる。肥るのは易く、痩せるのは難して三キロ落すのに三週間位か、るようである。かくて男、真平、今日もまた体操に励むのである。

同窓会館を作るからということ、道新から寄附を受けた土地である。今更取止めというわけにも行かず、七十周年の目玉行事に予定されているいきさつもある。元日腹の出具合を心配しながら酒を飲んでいて、ふと考えた。「俺と同じ

同窓会館建設の話がある。昨年から種々取沙汰されているが今更宿泊施設でもなからうし、酒も飲めない集会場などに同窓生が寄附をする筈もなく内容検討の段階ではたと行き詰ってしまった。いっそ

学園だよ

赤平 幸郎君 (湖陵高三年) スポーツ奨励賞に輝く

奨励賞は十月二十七日午前十一時から商工会館で行われたが、この授賞式で湖陵高校三年在学中の赤平幸郎君が見事スポーツ奨励賞授賞の栄に輝いた。同君はエア・ライフル三段の腕前で、北海道選手権大会、全国ジュニア大会などで昭和五十一年から引続き毎年一位になったほか、五十三年国体(長野)で五位五十四年国体(宮崎)で一位の成績を収めてスポーツ関係者の強い関心を集めていたが、今回優秀な成績を取った者として奨励賞の授

賞となったものである。当日赤平君は市長ら来賓の前にして理路整然、堂々と謝辞を述べて好漢ぶりを発揮、会場から「さすが」という囁きも聞えた。式典に出席していた、自身もライフル射撃協会に所属する同窓会の神 釜野副会長は「ライフルが一般スポーツと同格に評価されて嬉しい。自分の技倆だけを頼む、強い精神力がある孤独なスポーツだ。赤平は良くやった」と我が事のように喜びを語っていた。

55年度総会をかえりみて



同窓会幹事長
遠藤隆吉

昭和五十五年の夏は、強い寒気団のはり出しで、北海道、東北地方はまさに冷夏であり、大冷害となった。が、八月十日の釧路商工会館は、その冷夏をふきとばす熱気につつまれた。

「湖陵同窓会」の定期総会の日である。会場は、四〇〇名をこえる同窓生で充ちあふれ、定刻を少々すくすく総会が始まった。在校生のブラスバンドの演奏にあわせて「校歌」の斉唱。続いて「同窓生のより強い交流を」と考えつつも、意必ずしも達し得ないままでいるが、会報「くまざき」を二号まで発行出来、うれしく思う。関係者ほもとより、広く諸兄の御協力、激励に深く感謝する」と組村真平同窓会長。湖陵同窓会の力は誠に大きく、今迄味わったことのない母校をつつむ同窓生の温い心を感じる」と青木校長先生の、それぞれの言葉をいただいたのち、事業報告、議事に入った。議事では、会則の一部を変更し、新に相談役をおくこと

同窓会幹事長 遠藤隆吉

になり、名倉澁氏(緑陵中学校長、釧28期)の就任を承認、懇親会に入った。ここでは、昨秋激戦の総選挙で高得点で見事当選を果たされた衆議院議員北村義和氏(釧26期)、同じく池端清一氏(釧30期)に次いで、釧路市長鰐淵俊之氏(湖6期)からご挨拶、はるばる東京から来釧の在京釧路会幹事長 佐川和美氏(釧31期)から在京同窓生の近況(会報くまざきに連載)と政経・文化・教育等各界での活躍ぶりが紹介された。懇親会は、先輩、後輩ともに心をゆるし、現況と青春時代のなつかしさに我が世の幸せを語りあった。「イヤーツ、さつきのブラスバンドのトロンプーンは私の息子なんです。」

「そうか君の息子が、クラリネットのあの娘ね、俺の孫だヨ、ハッハッハ……」私はじめて来たのヨ、釧中の猛者ばかりと思つたら結構女性の方もいらつしやるのネ……あらーッあの方が学生の頃のあのヒト? お変りなく若々しいわネ……憧れたことあつたの……」今

日はこのあと僕達の同期会をやります。同窓会を機に、年一度の集りが楽しくてね。日頃忙しいからこの日が一層なつかしく待ちのぞんでいるのかも知れないナ」

同窓会館建設について

同窓会副幹事長 中川喜久雄

第二回同窓会館建設小委員会が一月三十日、午後六時から商工会館にて開かれた。

話し合ひは、在校生のクラブ合宿所や食堂をという学校側の要望と同窓会側の希望している、気軽に利用できる会議室とか同じ目的を持つ人が集まって話し合ひや活動のできる場所(同期会とか生け花などの講習会を開催)がほしいというこの両方の希望が叶えられ、同窓会館の建設が可能かどうか、その規模、構造、利用目的はどのようなか中心であった。そのいくつかを列挙すると、

湖18の各期の方々。会場の設営から賞品の準備など、全力投球の御尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。総会報告とする。

―代筆・徳田―

一、地下を同窓会が使用、一階食堂、二階合宿所、もし食堂が不可能な場合、地下同窓会、一階合宿所という構造はなどいろいろ考えが出された。

一、食堂を作る場合、食堂経営者に管理人を兼ねてもらつて管理する方向はどうか。

一、会議室や和室以外に同窓生の健康増進を図るためのアスレチックルームを作つたらどうかなどの話も出された。

その後、二月十七日に委員会の委員の方が帯広三条高校の同窓会館を視察された。これを基に近いうちに再度小委員会を開催し、その案を役員会に提示し、更に具体的なものへと進める予定である。

市議会議員

千葉 千代人
(昭12・3卒)

釧路市春日町三ノ四

市議会議員

羽田 行雄
(昭13・3卒)

釧路市新橋大通九ノ一ノ五

市議会議員

三国 達郎
(昭18・3卒)

釧路市春採四の一〇の九

市議会議員

小柏 佐市
(昭18・3卒)

釧路市新富士ア三ノ八

市議会議員

中村 隆
(昭19・3卒)

釧路市浪花町七ノ一〇

在校生に多大の感銘

湖陵記念館で初の講演会

鉦路市教育長 梅山源悦

初の試みである同窓会主催の講演会が十月二十七日午後一時から湖陵記念館で行われた。これは同窓会と在学生との接触強化を図るという活動方針の一環とし企画されたもので、組村会長の挨拶に引き続き鉦路市教育長梅村源悦氏、(鉦中二十七期)が「進路の選択と我が人生」と題して約一時間半、熱弁をふるった。

同氏は、その講演の中で自分の青春時代の苦闘を振り返り、人生の岐路に立った時は熟慮断行して進路を定め、その後は学業であれ仕事であれ迷うことなく情熱を打ち込んで、まっしぐらに努力すべきことを説き会場を埋めた一年生四五〇名に多大の感銘を与えた。好評に気を良くして執行部は、これからも毎年秋、いろ／＼な同窓生に登場願ひ、この企画を継続して行く予定のようであり、学校側も強くそれを希望している。



同期会だより

十勝から今日は!

鉦中湖陵十勝同窓会

会長 河崎 弘

二月二十二日午後零時半から一時まで、帯広グランドホテルにて鉦中、湖陵の定時総会を行い、記念撮影を終えて午後一時半から、鉦女、江南との合同交礼会を開会致しました。合同交礼会は今回で十九回目を迎え、今年は病氣回復の男沢先生に二年振りにお出掛けを頂き、たっぷり男沢節を聞かせて頂きました。又鉦女、江南の来賓としてお見えになった貝出先生は鉦中の出身でもある事から、両校来賓のユーモア溢れる御挨拶に、会場の雰囲気も一気に和やかになりました。次いで鉦路から御招きした長内副会長、中川副幹事長の御紹介があり、代表して長内副会長より、湖陵七十周年記念行事を中心テーマとしたお話を承りました。母校同窓会の活発な活動をお伺い致し、十勝同窓会としても、

二月二十二日午後零時半から一時まで、帯広グランドホテルにて分の御協力をしなければと考えております。宴会の部は岩井前会長(鉦中八期)の乾盃の音頭で開宴、今年は某先輩から「時節柄カラオケの必要あり」との温かい御助言により、カラオケ六百曲を用意しましたが、これが大成功で、宴は最高に盛り上がり、近年稀に見る充実した交礼会との好評を頂きました。特に女性会員の堂々たる熱演には盛大な拍手があり、負けじと老青年の飛入りなど時間の経過が惜しい程の賑いでした。最後の締めは恒例により江南出身の一番若い会員の音頭で万才三唱し、午後五時目出度く幕となりました。二次会は両校夫々別会場で、夜遅くまで長い／＼同窓の集いの一日でした。

市議会議員

本間 正直
(昭19・10卒)

鉦路市材木町一三ノ三二

市議会議員

清水 闊
(昭23・3卒)

鉦路市駒場町四ノ二三

市議会議員

日向 郁雄
(昭26・3卒)

鉦路市春採七ノ四ノ二三

市議会議員

藤巻 直樹
(昭27・3卒)

鉦路市鳥取大通二一三ノ一三

市議会議員

張江 悌治
(昭28・3卒)

鉦路市鶴ヶ丘三ノ四ノ二

同期会だより

卒業の四日前

湖 陵 五 期 徳 田 瑛 子

今となつては、すっかり色あせた昭和二十八年二月二十三日付の四頁の道新を取り出してみました。前夜午後六時、創立四十一年目の私達の湖陵高校の十六教室が全焼した記事が三面一杯に載っています。

校長は牧野包敏先生、当直者は清水不二也先生とあります。卒業式を目前にしての災難だけに、忘れる事が出来ません。

- 記事の見出しを見ましても
- 上京中の佐熊市長に打電
- 市内の各校に分散して授業
- 銅像真後校舎の窓下から煙
- 出火当時、大工は食事中(体育館改築中)

涙ぐましい生徒の活躍等々私共も自宅が、学校の直ぐ裏側でしたので、馳参した一人でした。図書部員だった事もあって真直ぐ図書室へ、片端から外へ運び出した記憶があります。

記事では「火災発生と同時に、続々押しかける姿は、ほとんど同

校生徒で、駆け付けた生徒は、危険をものともせず紅蓮の焰に追われながらも、階上階下の器物、図書を投げ下し、搬出するという涙ぐましい活躍を示し、さすがは学生」と見る人の感激を買い、これによって校内図書は、大半焼失を免れる事が出来たとあります。

私達こそ四日後に卒業でしたが新築校舎が完成する迄、各方面の皆様のお苦勞が今更の様に押し計られてなりません。考えて見ますと、私共が二年生の三月四日には十勝沖地震があつて、二時間続きの数学のテストが途中でふいに降りて出た記憶があります。尊い母校の校舎を全焼させてしまう等、余りにも大きな災害の多い高校生活でありました。

ちなみに、この日の記事の一つに「全日本純飛躍一位、吉沢広司(早大)最大不倒距離八十一米」とありました。一同窓会副会長(昭和28年卒)

会則と会旗出来あがる!!

釧中33期・湖陵2期

事務局長 高橋 映司

思えば我が青春は、戦運急を告げ、硝煙ただよう真つただ中であつた。学徒動員の余暇に掃鋤して見ると、鋤路は空襲で見ても無残な廃虚と化していた。そんな学生生活であつたから、修学旅行も、釧中伝統のうさぎ狩も我々の記憶にはない。釧中33期はそういう時代の期なのである。

今は、人生もいよいよ折返しの時点にさしかかり、家庭でも、職場でも重鎮として多忙を極める毎日である。だから同期の集まりの案内がある。どうか同期のおいても、はせ参じこの日はかりは、若き日の童心にかえり気をゆるして盃をくみ交わす。三十数年前、同じ釜のめしを喰った仲間だと言う共通意識が働いて、何とも形容しがたい酔に誘われるのである。

ての体裁をととのえようという声がかまきおこり、昨年八月九日第一回総会でようやく規約も承認、役員も選出されて出発したのである。はやくも、釧中33期(湖陵2期)のシンボルの会旗も出来あがり先般三吉神社にて入魂式をすませ、会員の冠婚葬祭の席等に出向いては会員の連帯感を深めているのである。

会則の大綱を紹介しましょう。会則は13条からなり、会長に木内周治氏を選出以下16人の役員を選んだ、会の仕事として、会員の名簿と会報の発行、東京・札幌支部との連絡の親睦、融和の集いとレクリエーション、慶弔規則等が決められている。



市議会議員

山口 功 (昭33・3卒)

釧路市昭和町四ノ二ノ九

市議会議員

綿貫 健輔 (昭40・3卒)

釧路市米町二ノ一ノ三四

衆議員 議員

北村 義和

阿寒郡鶴居村市街 (釧中26期)

青春譜・湖陵ヶ丘

〈3〉

「親友生まる」

鋼中32期 奥田達也

青春時代は友情の生まれるときでもある。精神的にも肉体的にも成長するこの時期に共に学び、遊び、悩むお互が親友となるのは当然のこと。ここ湖陵ヶ丘にも数多くの友情が育ち親友が生まれた。

その最初の例を中川久平と八代斌助との場合に見てみよう。

「鋼中時代はバラケイス。獅子と子羊が同じオりに安住し、貴族と乞食が同じ部屋であぐらをかく、といったようなものであった。在校生中一番の金持が中川で、一番の貧乏がオレであったが、貧富の差による劣等感などは、お互に一つも抱いていなかった」と八代は後年に述懐している。殆どの家庭が中流意識をもっている現在と違い、貧富の差の激しい当時、社会は勿論、学校でもその差別はある。

鋼路聖公会の会館設置に奔走する貧乏牧師を父にもった八代斌助は鶏を飼って卵売りをし、新聞配達もした。卒業までの五年間をたった一着の学生服でおした。ズ

ボンは切れて短くなり、尻には穴もあく。破れた穴の肌が見える所には墨をぬって目立たなくする苦労もした。

昔は服装検査があった。そんなとき友達皆が「早く知らせてくれ

貴族と日食が友情 「中川を生かしておけ」

と、八代

梯子から逃がしてくれたりもする一方、中川久平は、鋼路の大山久中川商店の若さんである。

この二人が開校早々の鋼中一回生として一緒にいる。この両極端な二人が強く引き合い、互に友情を感じ合うのが青春であり等若き日の特権である。

中川の母はそんな八代を可愛がり、卵をどこよりも高く買ってくれた。学費の補助もしてくれた。だが八代は、そんな彼女が学校に履くことを禁じられたゾウリを持

って、筋を通すこともする。

僧侶の禿尽奥、神宮の奥村節、易者の中村完、キリスト教の八代ら同級生が、市民生活のため」と教派合同の路傍講演をしたのもそんな頃。

後年、八代は牧師の道を進み日本聖公会首座主教となる。その八代を中川は

「第一回卒業生として世界的に誇り得る人物」と威張る。

八代も又、中川を評して、

「少年時代から六十四歳の現在まで世のため、民族のため、国家のため、あらゆる障害を乗り越えて不撓不屈で守り通してきた」と。

昭和三十八年十二月二十日。中川久平の危篤報に駆けつける八代斌助を迎える車が鋼路飛行場へと走った。鋼中八期の丹葉節郎と三期の小甲幸一が乗っている。

「二〇ヒコウキテクシロツクソレマテナカガワイカシテオケ」ヤシコ」の電文を手を。

「八代はまだか、すいぶん遅いな、飛行機着いたのかな、早くくればいいのになあ」と日赤鋼路病院のベッドで中川久平はいう。

四十分遅れの飛行機から黒装束の大きな体の八代斌助、富美子夫

人、孫そして同期の牧弘之も降り、一刻も早くと急行する。

車の病院に着くや、三階めがけて駆け上がる小甲。病室のドアを開けるや、中川のけいけいたる大きな両眼が光る。

「八代来たか」

「ハイ、参りました。奥様も一緒です。それに一期生の牧さんも」

一文字に結ばれていた中川の口は柔らき、胃ガンに頬もこけ、やせて巖しかった顔が、明るく、笑みさえ浮かべて、おだやかな童顔になる。

八代斌助の大きな体が入る。途端に中川久平は元氣良く両手を差しのべる。六十四歳の親友同士の手はしっかりと、固く固く握り合ったまま。互に一語も一言も出ない。二人の両眼からはただただ涙が……したたり落ち、また更に両眼をうるおい、両頬を濡らして……落ちる。

「鋼中魂と言ひ、湖陵魂と言ふもひつきよう理屈を抜きにした人と人、魂と魂との限らない堅い結びつきにあるのだ」と小甲幸一。

三十日払晩座禪を組み、めい想したまま深呼吸一つ、息を引取った。「空飛ぶ主教八代斌助もまた四十五年十月十日、七十才の生涯を閉じた。

鋼路市教育委員長

坂下忠勝

鋼路市富士見二丁目九番二〇号
(鋼中一六期)

道議會議員

滝沢勉

鋼路市南大通二番一七号
(鋼中一九期)

鋼路商工会議所会頭

渡辺源司

鋼路市北大通二丁目二番地
(鋼中二七期)

鋼路市教育長

梅山源悦

鋼路市柏木町四番三三号
(鋼中二七期)

鋼路市長

鰐淵俊之

鋼路市緑ヶ岡二丁目三十六番一十号
(湖陵七期)



在京釧路会の近況

― 釧中湖陵卒業生60% ―

釧中の巻 (下)

幹事長 佐川 和美

三十回生と三十一回生は、もとも同期生である。終戦直後のことで四年卒と五年卒に別れたのである。この同期生も、よくまとまっている。時折、東京で同期の集いをもって近況を語り合っている。この同期の自慢は、超党派ながら代議士を出していることだ。北海道四区の池端清一さんである。昨年十月の選挙では惜敗したが、今年六月の選挙では最高点で返り咲き同期生を喜ばせた。釧中開校以来、伊藤、森岡先輩について三人目の代議士である。従って、今回当選された二十六回生の北村義和さんは四人目の代議士ということになる。ともあれ、現役で二人の代議士を擁しているのだから、

わが同窓会も鼻が高いというものだ。さて三十、三十一回生では、池端さんのほか、法政大学教授で経済学部長の小林謙一さん、内科手術の一分野で世界的に著名な東大医学部第二内科の坂本二哉さんは釧路の二十七回生坂本一医師の実弟である。北海道料理「蟹銀」を新橋と荻窪で経営している石黒幹雄さん。和光物産社長の池田和悦さん。丸三証券部次長の本村九三さん。銀座と新宿で「かに熊」を経営する熊谷東行さん。高橋テラー社長の高橋恒男さん。日航建設コンサルタント社長の千葉敏行さんはゴルフの腕前もなかなか。首都圏の富士銀行には三名の管理職がいる。横浜駅前支店の風間昭

吾さん。荻窪支店の山本勝三さん。小松川支店の安倍裕二さんらである。都立京橋高校で教鞭をとる大野正さんは霧多布の出身。ステファノ木内オペラ劇場理事長としてクラシック音楽一筋に精進する木内清治さん。東京放送テレビの幹部で活躍している清水和幸さんは白糠町の出身。農林省食糧庁主計課長補佐の鈴木七郎さんは、旧姓西村さんで厚岸町の出身。(財)都市調査会の常務理事として海外出張の多い奈良忠さんは、釧路市収入役の奈良繁さんの実弟。協和銀行の初代支店長から島根直松江の支店長に栄転した島滋夫さん。音楽家として後進の指導にあたっている池田富男さんは弟子屈町の出身。転勤の多かった国民金融公庫に勤める尾田清さんは千葉の館山支店で落ち着いたようだ。以上のように、この回の同期生も多ク顔振れも多彩だ。

三十二回生も東京に多い。ここでは数名のみの紹介にとどめた。独協大学経済学部の教授をしている栗村英二さんは、大学に近い草加市に居住、近く海外に留学の子定だそう。釧路の二十六回生栗村洋一医師の実弟である。日本開

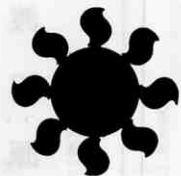
発銀行に勤める佐藤伸一さんは最近、地方勤務から東京に戻り開発局企画部長の要職に栄転した。この同期生の世話役の一人、小川博さんは本州リム(株)総務部副部長である。三十三回生では、深川の川田銘木(株)社長の川田清二さん。キングレコードの作曲家としてテレビでお馴染みの小町昭さん。月刊、旅と酒を発売している(株)永田社の永田哲郎さんは、在京釧路会の常任幹事として活躍している。この回の同期生は約二十名程いるが、新製の湖陵高校の在京の諸君と共に又の機会に紹介したい。(筆者は釧中30回卒、釧路新聞東京支社長)



太陽のように明るく暖かい
真心で良い品をより安く
ご奉仕するセオチェーン



● 食料品 ● 日用品 ● 衣料品 ● 軽食堂



セオ

- 妹尾商店 釧路市新橋大通1丁目 ☎25-5345
- 新富士ストアー 釧路市新富士駅前 ☎51-3467
- 愛国ストアー 釧路市愛国37番地 ☎36-4295
- 白樺ストアー 釧路市白樺台1丁目 ☎91-5423
- 昭園ストアー 釧路市昭和190番地 ☎51-8853

わが青春に悔あり

—その二—



釧中27期生

中村 隆

釧中三クラス最後の百五十名として私が入学したのは昭和十四年。そして三年生の十二月に大東亜戦争が始まった。二十三回生からあった兵営宿泊は私等二十七回生になつてなくなり楽しくあるべき修学旅行など勿論ない。かわりにあったのが三、四、五年生時に標茶、白糠への軍馬補充部での援農作業だった。旅館の布団ならぬ軍の毛皮にくるまった同期の桜たち。今、悔いもしようか。

当然に勉学より教練が尊重された。学校は軍隊とまぎらわしくなる。校長、教諭より配属将校の発言力が強まり、その助手さえが権力をもった。個性豊かに育てるべき学校は、ただ戦争に勝つため、兵隊にするために教育した。助手の某氏は好き嫌いの激し過

ぎ、エコヒイキの強い男で、私はなぜか目の仇のように嫌われ、いじめられた。最高学年に当る週番も私を飛び越えて一度もさせられないとか、悪いことはいつも引き出される、といった具合だった。その仕打はニガイ思い出として今も残る。

二十八年に独立して以来、魚屋青果店そして寿司屋、中華料理店ホテルなどの多勢の従業員と接するとき、エコヒイキしたり、差別などしては事業はなりたたぬことを痛感する。商売違いの画家、文人、教授らと話し合う時も、得手不得手は誰にもある。差別なくつきあうのが学校であり社会でもあるのだと思ひ、某氏を反面教師かな？とも考えたりする。

当番期よりつひと

釧中29期生会長

中村 衛

月日の流れは早やいもので吾々も旧制釧路中学校を卒業してから三十六年の月日が過ぎた。その間戦争戦後の苦しい時代を過て多くの友を戦死病死で失つてしまった。中学時代親元を離れて飛行場建設、援農等々何ヶ月も友と寝食を共にした体験が吾々同期生の間には連体感がとりわけ強い様に思われる。

そのあかしとして卒業後間もなく有志によつていち早く同期会が持たれ、今年二月の同期会も三十数回目となる。同期会旗も同窓会の中で一番早く十数年前に出米慶弔の事ある毎に事務局長が責任をもつて持参必ず立てる事になっている。亦会則も出来年会費も会員の協力により集まりこれによつて年間行事が運営されている。亦年一回の同期会報も発行され遠地に住む友にも郵送され、それによつて二月第二土曜日会場八まきと言う不変の日時会場に昨年も九州、広島からの友

が加はりいつも六十数名による楽しい語り合いの集りが続いている。亦今年は永年幹事、一年幹事の諸志と相談の上夏頃同期生物故者の合同遺霊祭を市内の寺を借りてやろうではないかと言う構想もねられてゐる。吾々同期はこれからも「友は減ることはあつても決して増える事はない」を相言葉に友を大切にし互いに励まし合う事を心に交りを重ねて行く事に行っている。尚今年は湖陵同窓会の年長当番期に当たり今期同期の役員十数名に加えて二十五名程のスタッフを造り湖陵九期十九期等々の若い力を借りながら今迄の当番期諸先輩に負けない様力を結果し頑張りたいと思つてゐる。

釧路日産自動車株式会社

取締役社長 小船井 武次郎

釧路市鳥取大通9丁目2番
 (自) 釧路市弥生2丁目11番27号
 (釧中21期)

常に業界をリードする

ポスター・パンフレット・ダイレクトメール・カタログ・カレンダー
 事務用伝票・印刷のことなら何んでもお気軽にご相談下さい。

米内印刷株式会社

米内印刷株式会社社長 米内 富久司 (釧中12期)

本社/釧路市堀川町5 代23-0471

「くまびと」編集裏話し

編集委員長 田村 佳男



☆組村会長が就任して間もなくの役員会で「二十数年前に幻の創刊号があったと聞くが、なんとか再刊したい」という話が出たので、賛成したとたん、早速、その大役が私に当って仕舞った。

☆在学時代さっぱり勉強もせず、硬派振りを発揮して学校に迷惑ばかりかけていた私のせめてもの「罪ほろぼし」といった気持ちもあつてお引き受けをした。

☆理想から言えば、各期、性別を考慮して編集委員会を構成すべきだが、考えて見れば、一号出すのに、集る会数は莫大である。幸い、私の出身母体は、三百名を越す市内小中高大の先生方である。職業柄、多少その道の経験もあり、連絡もと易い。そんなことで、会報が軌道に乗るまで、教職員湖陵会がお引き受けすることとなった。

☆八幡弥平（創中二十八期・東栄小教頭）、上岡信明（創中三十期・柏木小教頭）、徳田広（創中三十三期・共栄中）、佐藤強（湖陵三

期・鳥取西小）、中村忠太（湖陵五期・共栄小）、金井勇司（湖陵三期・駒場小）の各氏に、遠藤幹事長を加え、九名であるが、実質編集作業は上岡氏が中心となつて行われている。

☆第一号のメインは「歴代会長とおおいに語る」としたが、会場にテープと、速記者、写真担当者配置、座談に花を咲かせたまではよかつたが、さき、その後が大変である。何分取める割当頁数は制限されている。あの人のことは、この人のことはを少しずつつけてやつと収めるといった仕末と相成つた。

☆「なるべく各地の動向紹介を」と執筆依頼をしたが、さて、なかなか、期日まで到着しない。ようやく届いたと思うと割当頁をはみ出している。仕方なくその部分を次号へと回らすこととする。

☆発行費は、卒業生の企業広告料によつてまかなわれている。一区画一万円也。三十万円が一回の発行費である。広告担当は、遠藤幹事長が主として當つてい

るが、三十区画分を集めるのそなみたいていではない。

☆そんなこんなで第一号は、二月末発行予定が四月上旬となつて仕舞つた。しよせん、素人の仕事と痛感したが、第一号の感激はひとしおである。

☆これにこりて、第二号は早目に着手した。

なにせ、八月の総会発行が命題だつたからである。広告も小まめに集めるより、企業のもとまり毎に、大口でということ、遠藤幹事長の苦勞を考え、私も走り回ることにした。私自身、もと太平洋関係の学校にいた関係で、旧知の「まりもハイヤー社長の加藤さんに相談に行つたら、早速、太平洋関連グループ二十数社を一挙にまとめてくださった。先輩とはありがたいものだ」とつくづく感じさせられたものである。

☆「三号迄続けば、あとはだいじようぶ」という先輩の励ましもあり、ようやく三号の責任を終えることができた。

このへんで、これからのことをちよつと考えてみたい。

一、職業には職業くさきがある。広報誌に、先生くさきさが、本人達の知らぬ間ににじみ出ているのではなからうか。それが心配である。いろいろな職場には必

ず湖陵出身者がいる。いろいろな企業をぐるぐる回つて、編集担当するのも一方法であらう。

二、広告はあつてもよいが、予算化する必要がある。

三、会も、広い年代層、地域に互つている。親しく読まれる工夫は是非必要であらう。

四、会報誌を案外知らない人が多い。各期の幹事を通してもっと浸透させる必要を感じる。

いずれにしても、ここまで育ててくださった会員の皆さんに、心から、おわびと、お礼を申し上げて雑記とします。
(創中二十六期・現昭和小学校長)



編集後記

暦の上では既に春が立ち、桃の三月春浅く風も冷たく、春とは名ばかりの寒さの日もありません。本年は干支では、辛酉で多難の年といわれております。

しかし我々同窓会は一喜一憂することなく、設計と目標に向かつて勇躍邁進するのみです。私共は、この日に合わせ、第三号の発行に鋭意努力して参り、本日会員の皆様にお届けすることが出来る事、慶びとしております。

この機関紙が、先輩と後輩、同期と同期をつなぐ同窓会唯一の心のよりどころとなるよう、次号も編集して参ります。

尚「くまびと」第四号は、夏八月の総会を目的に発刊を予定しております。どうぞ原稿は、組村会長又は左記編集委員にどうぞ、投稿ください。期別グループでの会合や集会の記事を大歓迎でお待ちしております。

- 編集委員長 田村 佳男
 編集委員 遠藤 隆吉
 八幡 弥平
 上岡 信明
 徳田 広
 金井 勇司